



しおた しげる
塩田 茂さん
(昭和22生まれ・68歳)



いまざわ ゆき
今澤優希さん
(香川県立丸亀高等学校1年)

コーディネーターより

タイラギとは、長さ20~25cmにもなる大きな貝。その貝柱はお寿司屋さんでもめったにお目にかかれない高級貝です。シーズンは冬。タイラギは海底に突き刺さるように立っていて、潜水夫が水深30m以上潜って手作業で一つひとつ採ります。一度潜れば、船上からパイプで空気を送りながら、5~6時間も深い海底で作業する潜水漁。体力的に厳しく危険な仕事のため、40歳ぐらいでやめる人がほとんど。そんな中、60歳を超えてもタイラギを採り続けたのが、高松市庵治町に住む塩田茂さん。若い頃から誰よりも深く潜り、多く採ったことから「海の鉄人」と呼ばれてきました。長年培われてきた技術、勤、判断力は素晴らしい、自信と才能にあふれた方でした。

んや。私が25歳ぐらいまではそんな装置はなかった。ほんだけん、みんなが潜水病になりよった。潜水病になったら、体が痛くなってほんまにしんどい。中には死ぬ人もおる。昔は、痛み止めを打ったり、酒飲んで我慢したりする人がよくおった。

— 今後、タイラギ漁の後継者は出てきそうですか。

貝では、商売はできん。私が20歳時分には、そら一年で家が建つだけ儲けることができた。それから30年経ってまたようけ貝が発生した。けども、今はまた収獲量が減りよるからなあ。

— 次に、大量に採れる時期がいつなのかはわかりますか。

それがわからんや。今、アサリが香川県も瀬戸内海も全然おらんって言いよるやろ。そんなも、周期がある。だから貝ではずっとは商売できん。九州の人は貝の仕事の合間に他の仕事で生計を立てられるわの。私らは、他の仕事には行かんから、素潜りでアワビやサザエを採ったり。7~8年前まではハマチやカシパチを養殖したりしとった。だから、後継者はつくれんの。潜水夫を育てるのはなかなか難しい。育てるんだったら2年はかかる。赤字じゃけん、なかなか育てられん。

— 海の中はどんな様子でしょうか。

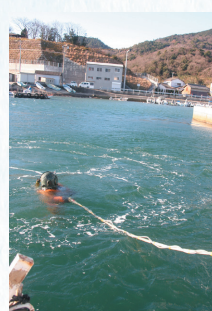
海の中は陸と同じ。山があれば谷もある。陸の地図があるように、海図やっつてあるんぞ。昨日たくさん採った場所で貝を探しても見つからんときがあるやろ。

海の中は陸と同じ。
山もあれば、川もある。

タイラギ漁の元潜水漁師 塩田茂さん(高松市)



1 実際のタイラギの様子を見ながら、解説してくれる塩田さん。海底では、海流に流されないよう地面に這いつくばるようにして、何時間も作業する。心身ともに過酷な漁だ 2 宇宙服のような潜水服。ヘルメットと靴だけで60kg近くになるとか 3 地図を見ながら周辺の海の地形を説明し、まるで陸地を歩くように海底の様子を語ってくれた 4 タイラギ貝は「手かぎ」と呼ばれる鍵状の道具で、砂の中に埋まっている貝を引っ掛けるようにして採る 5 タイラギ貝は、大きいものは殻の長さが20cm以上にもなる。その大きな貝柱は、高級食材として高値で取り引きされる



参加者の感想



タイラギという名前も形も知らない貝を宇宙服のような潜水服を着て採る漁があると知り、興味を持ちました。しかもそれが香川県で行われているなんて、と驚き、ぜひ取材してみたいと思いました。実際塩田さんの話は初めて耳にすることばかり。地球温暖化の影響や、瀬戸内海の変化、タイラギ漁師が減ってきているという問題。特に、その危険性や難しさからタイラギ漁を継ぐ人がほとんどいないというのが現状とのこと。他にもまだこの漁法を知らない人がたくさんいると思います。伝統ある漁が失われないように、私も発信していきたいです。

だから、海の中でも場所を把握する必要がある。でも、海の地形を覚えとるからだいたい場所がわかるんや。海の中にあるいろいろな「山」を目印にすると、自分が今いる場所がわかる。

— 今更はずっと潜ってきたけん、海の場合は手に取るように頭に入っとる。養殖も、何十年間もしたけん。温暖化の影響で、この5~6年ぐらいは外海の海藻がこっちの瀬戸内海でも、ぼつぼつ生えよるんや。外海と言っても、四国だったら高知から愛媛県、九州はもう全域、三重県の方まで。名前も知らんような海藻が何本もあるの。水温が1度上がったら、何百キロも北上がるんや。だから、沖繩のほうの海藻がこっちで生えるのも無理ないんや。

塩田さんから受け取った言葉

— タイラギ漁は危険と聞いたのですが、今までで特に印象深かった出来事はありますか。

もう、いっぱいある。友達もようけ死んだ。何人死んだかな。庵治の人ではないけれど、松山や九州の潜水夫仲間が4~5人は死んだかな。だいたいは無理して潜水病になったり、事故が原因や。事故というのは、海中にいるときに送り返まれる空気が止まるといった事故。それと、海から陸に上がってるときに、体にかかる圧を考慮してゆっくり上がらないかんのに、速く上がると潜水病になるんや。

— 減圧室とはなんでしょうか。

海の深いところにずっといると、圧の関係で潜水病にかかる危険が高まる。それを防ぐために、陸に上がってきたら時間は減圧室に入って体を徐々にならす

